

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役会長 稲垣 良次

2025. 7
No.383

イナテック版 私の履歴書 No. 3

小学生から中学生にかけて

帝王学を学ぶ

当時を振り返ると、父（邦松氏）はよくお客様の接待の場に私を連れて行ってくれました。料亭の座敷では、お酌や下座上座といった席次などの作法を手伝わされました。もちろんそこには芸者さんもうらつしやつて、私はその場で彼女たちから料亭での作法や立ち居振る舞いなど、さまざまなルール教えていただきました。

なぜ私を接待の場に連れていったか、父から聞くことはありませんでした。しかし今になつて思えば、父は手っ取り早く商談をまとめ、息子（私）がいることを理由にその場を早く切り上げるのが目的だったのではないかと思っています。

当時の父の様子を考えると、おそらく帰宅後も現場に向いて、旋盤を動かし仕事をしていたと思います。それだけのことをしなければ、住み込みの工員さんや私たち家族を食へさせていくことなど到底できませんでした。その努力があつたからこそ、今があるのだと確信しています。

父が商談をしている間は、てるねえさんやまりこさんといった芸者の方々に遊んでもらっていました。私にとって料亭での芸者さんとの時間は、まさに帝王学を学ぶ場でした。

高校から大学に上がる頃、「スナック」といわれる店が始めました。しかし、私は変わらず料亭の二階で過ごすことがほとんどで、今思えば、父は大変貴重な体験を私にさせてくれたと思っています。その経験が、後継

者としての自覚が芽生える原点となつたのだらうと思う次第です。

中学時代、部活で学んだこと

中畑町、平坂町、楠村町と各地域から生徒が集まる平坂中学校に入学しました。

勉強よりも身体を動かすことが大好きだった私は、テニス部に入部しました。1年生の間はボール拾いと素振りが中心で、2年生になつてようやく練習が許される、そんな厳しい世界でした。

私はダブルスの前衛を務め、中根君などとペアを組むことが多く、いつも楽しませていただきました。

指導してくださった加藤先生は大変厳しい方でした。夕刻、あたりが暗くなつた頃からだんだん熱が入り先生がトスを出してくれるのですが「先生、暗くて見えません」と言うのと、「バカ者、走ってみないとボールに追いつけるか分からんだらう。走る前から諦めるな」と大声で叱りつけられました。そして私がうろう

ろしていると、「たわけ、ボールが見えなくても、音を聞いて走れ！」と一喝されました。

不思議なことに、集中しているとだんだんボールに身体が反応できるようになり、全力で走って追いかければ、相手コートに返せなくともボールに触れるまでになったのです。

加藤先生からは、「ほら見ろ、やつてもみないのに、最初から『できません』『もうだめです』なんてこと言うんじゃない。何事も挑戦することが大事なんや」と教えていただき、その教えは今の私の信念や行動訓になっていると思っています。

そこまで鍛えてくださった加藤先生には、心から感謝申し上げます。

高校受験

私にも高校受験がありました。

両親は私が西尾高校に入学することを望んでいましたが、それが難しいと分かると、先生に頼み込んで（昔は許されたことですが）先生のご自宅で特訓を受けました。しかし、元来勉強が好きでなかった私は、一色高校を受験し合格したのです。両親はさぞ落胆したことだろうと、この頃つくづく感じています。どちらかといえば、先輩についていつて喧嘩に参加するほうが面白いと感じる年頃でした。

菜根譚後集

一一四

小處不滲漏、暗中不欺隱、末路不怠荒。纔是個真正英雄。

小事だからとて手ぬかりするようなことはなく、人が見ていないからとて欺きかくすことではなく、落ちめだからとて投げやりになることはない。このようであってこそ、初めてひとかどの人物である。

